

ヨナ書 ヨナ

¹主*の言葉が、アミタイの子ヨナに臨んだ。

²「立て。あの大きな町ニネベへ行き、これに向かって叫べ。彼らの悪が私の前にまで上って来たからだ。」

³しかしヨナは、主の前から逃れてタルシシュへ行こうと立ち上がった。彼はヨッパへ下り、タルシシュ行きの船を見つけた。船賃を払って乗り込み、彼らとともにタルシシュへ行き、主の前から逃れようとした。

⁴しかし主は、海の上に大風を送り出された。海には激しい嵐が起り、船は今にも砕けそうになった。

⁵船乗りたちは恐れ、それぞれ自分の神に叫び求めた。そして船を軽くするため、積み荷を海に投げ捨てた。ところがヨナは船の奥深くへ下り、横になってぐっすり眠っていた。

⁶船長が彼のところへ来て言った。「眠っている場合か。起きて、あなたの神[†]を呼び求めよ。もしかすると、あなたの神[‡]が私たちを心に留め、私たちは滅びずに済むかもしれない。」

⁷彼らは互いに言った。「さあ、くじを引いて、この災いがだれのせいで私たちに降りかかったのかを知ろう。」彼らがくじを引くと、くじはヨナに当たった。

* **1:11:1** すべて大文字の「主」または「神」は、ヘブル語のיהוה（ヤハウェ）に由来す

† **1:6 1:6** または「神々」 ‡ **1:6 1:6** または「神々」

8 そこで彼らはヨナに言った。「どうか話してくれ。この災いが私たちに降りかかったのは、だれのせいなのか。あなたの仕事は何か。どこから来たのか。国はどこか。どの民の者か。」

9 ヨナは彼らに言った。「私はヘブル人です。海と乾いた地を造られた、天の神である主^Sを畏れています。」

10 すると男たちは非常に恐れ、彼に言った。「あなたは何ということをしたのか。」ヨナが主の前から逃れていることを、彼自身から聞いていたのである。

11 彼らはヨナに言った。「海が私たちのために静まるには、あなたをどうすればよいのか。」海はますます荒れていた。

12 ヨナは彼らに言った。「私を抱え上げて、海に投げ込んでください。そうすれば、海はあなたがたのために静まります。この大嵐があなたがたを襲ったのは、私のせいだと分かっています。」

13 それでも男たちは、船を陸へ戻そうと懸命にこいだ。しかし、できなかった。海は彼らに逆らって、ますます荒れたからである。

14 そこで彼らは主に叫び求めて言った。「ああ、主よ。どうかこの男の命のゆえに、私たちを死なせないでください。罪のない血の責任を私たちに負わせないでください。主よ、あなたは御心のままに行われたのです。」

15 それから彼らはヨナを抱え上げ、海に投げ込んだ。すると海は荒れ狂うのをやめた。

16 男たちは主を大いに畏れ、主にいけにえをささげ、誓願を立てた。

^S 1:9 1:9 「神」と訳されたヘブル語は「אֱלֹהִים」（エロヒム）である。

17 主はヨナをのみ込むため、一匹の巨大な魚を備えられた。ヨナは三日三晩、魚の腹の中にいた。

2

1 それからヨナは、魚の腹の中から、自分の神である主に祈った。

2 彼は言った。

「苦しみの中から主に叫び求めると、

主は私に答えてくださった。

よみ*の腹から助けを求めて叫ぶと、

あなたは私の声を聞いてくださった。

3 あなたは私を深みへ、

海のただ中へ投げ込まれた。

大水が私を取り囲み、

あなたのすべての波と大波が、私の上を越えて行った。

4 私は言った。『私はあなたの目の前から追い払われた。

それでも、もう一度あなたの聖なる宮を仰ぎ見よう。』

5 水は私を取り囲み、

命にまで迫った。

深い淵が私を包み、

海藻が私の頭に絡みついた。

6 私は山々の根元まで下った。

地はそのかんぬきを下ろし、永

遠に私を閉じ込めた。

しかし、私の神、主よ、あなたは私の命を穴から引き上げてくださった。

7 命が尽きようとした時、私は主を思い出した。

* 2:2 2:2 よみ（シェオル）は死者のいる場所である。

私の祈りはあなたのもとへ、あなたの聖なる宮へ届いた。

8 空しい偶像に心を留める者たちは、自らに差し伸べられた慈しみを捨てる。

9 しかし私は感謝の声をもって、あなたにいにえをささげる。

誓ったことを果たす。

救いは主のものだ。」

10 すると主は魚に命じられた。魚はヨナを乾いた地に吐き出した。

3

1 主の言葉が二度目にヨナに臨んだ。

2 「立て。あの大きな町ニネベへ行き、私があるに告げる言葉をそこで叫べ。」

3 そこでヨナは立ち、主の言葉に従ってニネベへ行った。ニネベは非常に大きな町で、歩いて横切るのに三日かかるほどであった。

4 ヨナは町に入り、一日分の道のりを進んで叫んだ。「あと四十日で、ニネベは滅ぼされる！」

5 ニネベの人々は神を信じた。彼らは断食を布告し、身分の高い者から低い者まで粗布をまとった。

6 この知らせがニネベの王に届くと、王は王座から立ち上がり、王衣を脱ぎ、粗布をまとって灰の中に座った。

7 王は貴族たちとともに、ニネベ中に布告を出した。「王とその貴族たちの命令である。人も家畜も、牛の群れも羊の群れも、何一つ口にすることはならない。草を食べさせても、水を飲ませてもしならない。」

8 人も家畜も粗布をまとい、力の限り神に叫び求めよ。それぞれ悪い道を離れ、その手で行う暴虐を捨てよ。

9 もしかすると神は思い直し、燃える怒りを収め、われわれは滅びずに済むかもしれない。」

10 神は彼らの行い、すなわち彼らが悪い道から立ち返ったことをご覧になった。そこで神は彼らに災いを下すと告げていたが、それを思い直し、行われなかった。

4

1 しかしヨナは、このことを甚だしく不快に思い、怒った。

2 彼は主に祈って言った。「ああ、主よ。私はまだ自分の国にいた時、こう言ったではありませんか。だから私は急いでタルシシュへ逃れようとしたのです。あなたが恵み深く、あわれみに満ち、怒るのに遅く、慈しみに富み、災いを下すことを思い直される神であると知っていたからです。

3 ですから今、主よ、どうか私の命を取ってください。私には、生きるより死ぬほうがましです。」

4 主は言われた。「あなたが怒るのは正しいことか。」

5 それからヨナは町を出て、町の東側に座った。彼はそこに自分のために仮小屋を造り、町がどうなるかを見るまで、その陰に座っていた。

6 主なる神は一本のつる草を備え、ヨナの上に伸びさせた。それが彼の頭を覆う陰となり、彼の苦しみを和らげるためであった。ヨナはそのつる草を非常に喜んだ。

7 しかし翌日の夜明けに、神は一匹の虫を備えられた。虫がつる草をかじったので、それは枯れた。

8 太陽が昇ると、神は焼けつくような東風を備えられた。太陽がヨナの頭を照りつけたので、彼は気を失いそうになり、死ぬことを願って言った。「私には、生きるより死ぬほうがましだ。」

⁹ 神はヨナに言われた。「つる草のことで、あなたが怒るのは正しいことか。」

彼は言った。「死ぬほど怒るのは当然だ。」

¹⁰ 主は言われた。「あなたは、自分で苦労したわけでも、育てたわけでもないつる草を惜しんでいる。それは一夜で生え、一夜で滅びたものだ。」

¹¹ まして私は、右と左を見分けられない者が十二万人以上おり、多くの家畜もいる、あの大きな町ニネベを惜しまないでいられるだろうか。」

フリーダム・バイブル
**The Holy Bible in the Japanese Language, Freedom
Bible translation**

Public Domain

Language: 日本語 (Japanese)

この聖書翻訳には著作権が設定されていません。この聖書翻訳の公式な配布元は eBible.org です。これは翻訳の草案です。この聖書翻訳をより良いものにするため、改善のご提案を ebible.org+jpnm@gmail.com までお寄せください。

2026-07-24

PDF generated using Haiola and XeLaTeX on 29 Jul 2026 from source files dated 24 Jul 2026

8daadcbf-1b7a-51a2-98ce-7e95a9e95424